

過去1年間の運用経過と 今後の見通し

2016年3月 作成

(作成基準日：2016年2月29日)



「グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド」が、
モーニングスター株式会社の
「Morningstar Award “Fund of the Year 2015”」
国際株式型 部門におきまして
最優秀ファンド賞を受賞いたしました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2015”について

Morningstar Award “Fund of the Year 2015”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2015年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国際株式型 部門は、2015年12月末において当該部門に属するファンド1,088本の中から選考されました。

お申込みの際は、必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

●お申込み・投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は

●設定・運用は

三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

追加型投信／内外／株式

**グローバル・ヘルスケア&
バイオ・ファンド**

愛称：健次



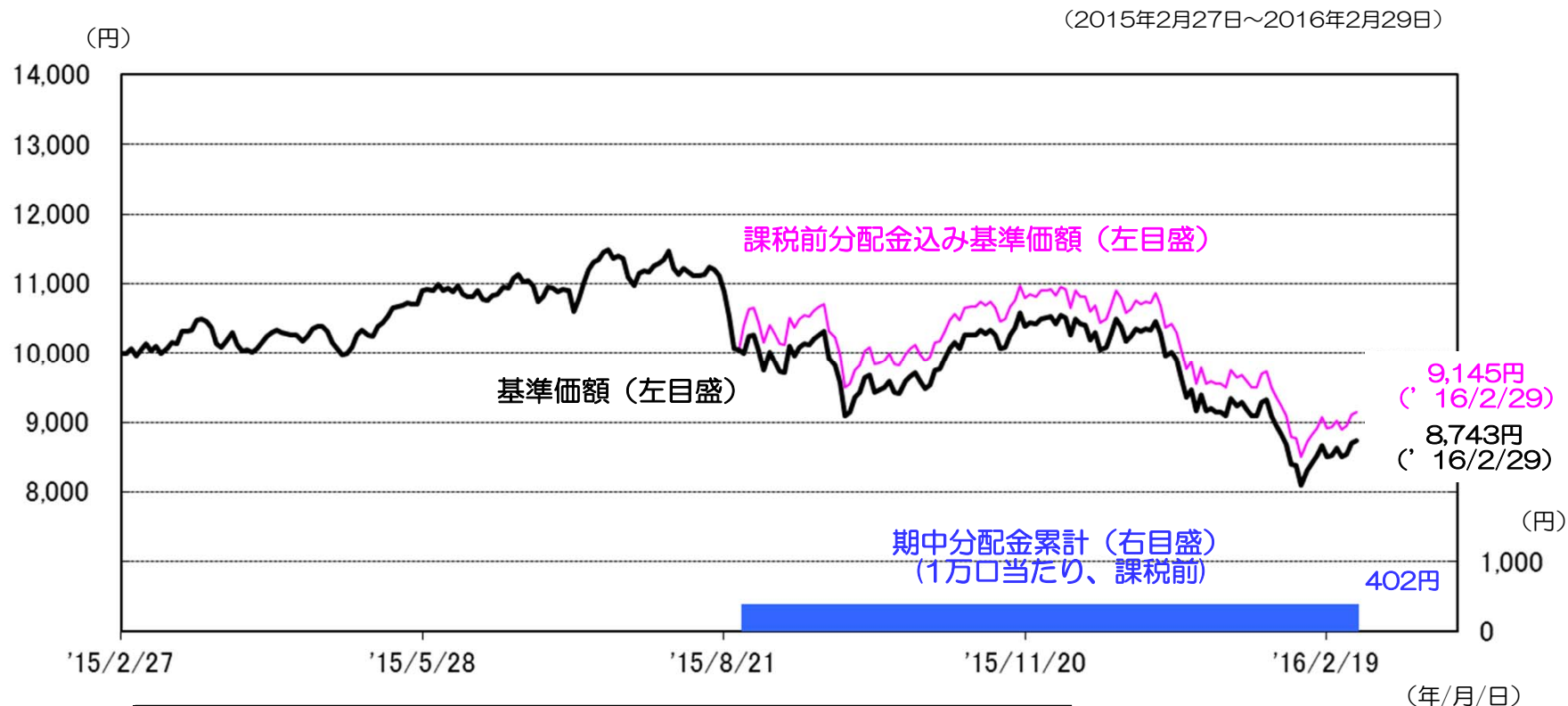


過去1年間の基準価額等の推移（2015年2月末～2016年2月末）

2015年2月末からの基準価額は、2015年末までは堅調だったものの、2016年以降の世界的な株価下落に連れ安となり、下落しました。また、為替は円高米ドル安となり、下落要因となりました。

基準価額は過去1年間で、期中分配金を含めると▲855円となりました。

◆ 過去1年間の基準価額等の推移



'15/2/27 基準価額	'16/2/29 基準価額	期中分配金 （1万口当たり、課税前）	変化幅（率）
10,000円	8,743円	402円	▲855円（▲ 8.6%）

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

※基準価額（1万口当たり）は、信託報酬控除後のものです。

※課税前分配金込み基準価額は、基準価額に期中の課税前分配金累計を加算したものです。

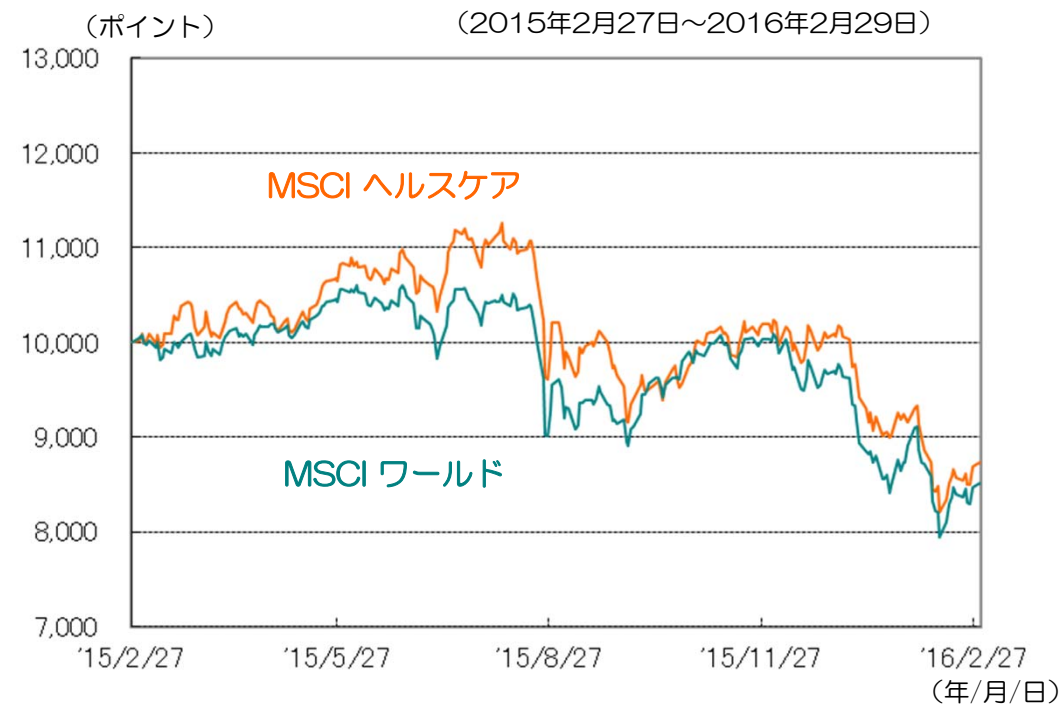
※収益分配金は一定の分配金額をお約束するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。



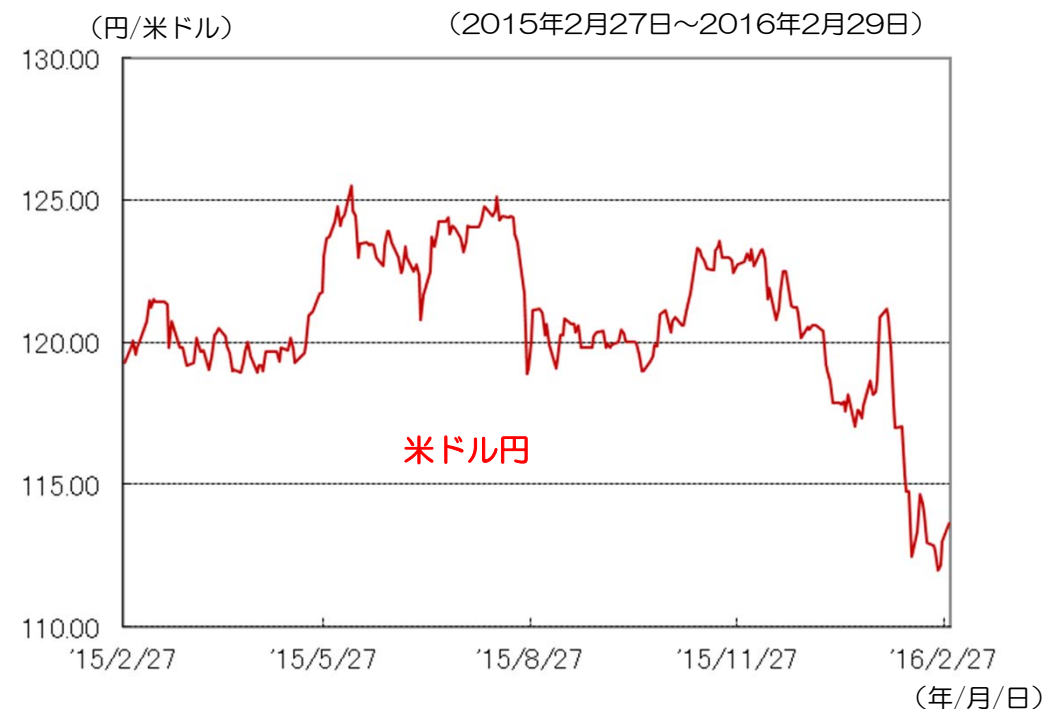
過去1年間の投資環境 (2015年2月末～2016年2月末)

- 【株式】 ヘルスケアセクターの企業業績が堅調だったことや、日銀や欧州中銀などの量的金融緩和策などを背景に、ヘルスケアセクターの株価は上昇傾向となったものの、2015年8月後半から9月末にかけて、中国や新興国の景気減速懸念、ヒラリー・クリントン氏による薬価引き下げ発言などから下落しました。また、2016年は世界的な景気減速懸念から、大きく株価は下落しました。
- 【為替】 原油安などによる日本の貿易収支改善や市場がリスク回避的となったことを受け円が買われ、円高米ドル安となりました。

◆ 過去1年間のMSCIヘルスケア、MSCIワールド（円換算）の推移



◆ 過去1年間の米ドル円の推移



	2015/2/27	2016/2/29	変化幅	変化率
MSCI ヘルスケア	10,000	8,732	-1,268	-12.7%
MSCI ワールド	10,000	8,512	-1,488	-14.9%

【出所】 Bloomberg

※上記はあくまでも過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

※MSCI ワールドおよびMSCI ヘルスケア：MSCI ワールド・インデックス（税引き後配当込み米ドル建）およびMSCI ワールド・ヘルスケア・インデックス（税引き後配当込み米ドル建）に基づき、

三菱UFJ国際投信が円換算し、2015年2月27日を10,000ポイントとして指数化。なお、両インデックスは当ファンドおよびマザーファンドのベンチマークではありません。

※計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

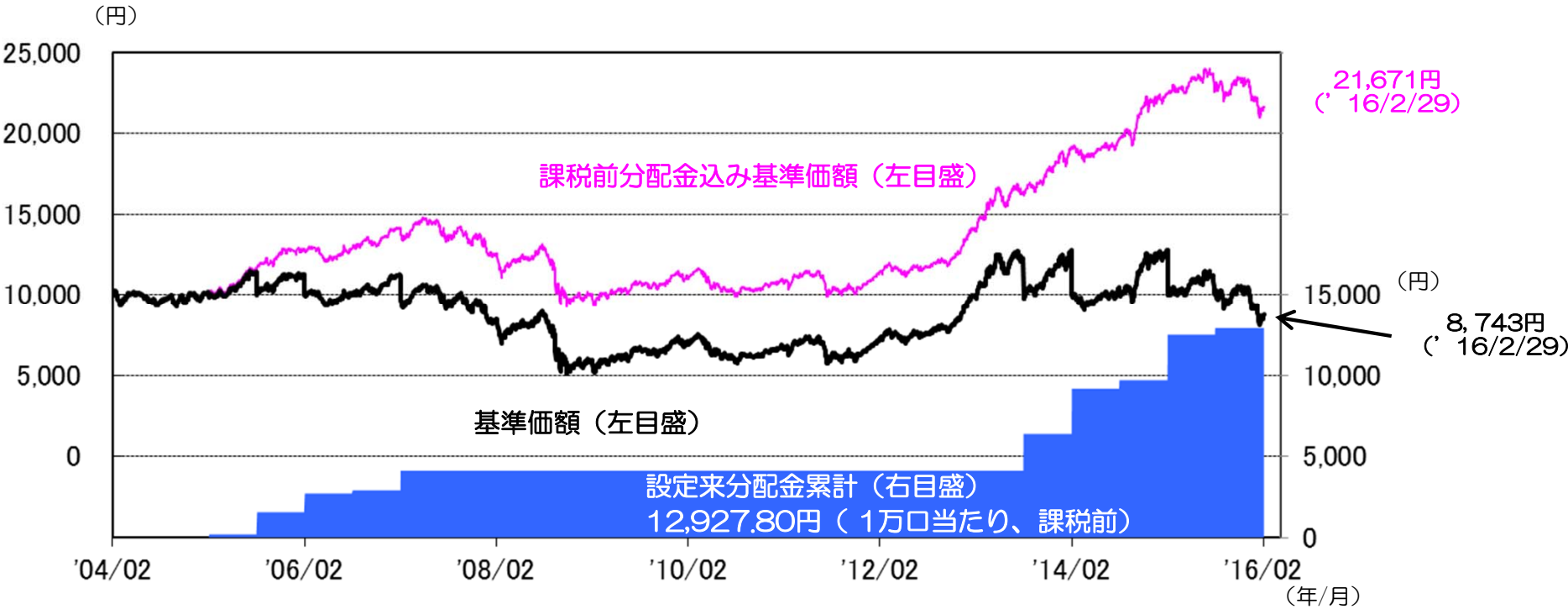
巻末の「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。



設定来の基準価額等の推移（当初設定日：2004年2月27日～2016年2月末）

設定来の分配金は、トータルで12,927.80円となりました。

◆ 設定来の基準価額等の推移



◆ 設定来の分配金の推移

決算日	2005/2/28	2005/8/29	2006/2/27	2006/8/28	2007/2/27	2007/8/27	2008/2/27	2008/8/27	2009/2/27	2009/8/27	2010/3/1	2010/8/27
分配金	217.80円	1,370.10円	1,150.10円	201.00円	1,205.40円	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円

決算日	2011/2/28	2011/8/29	2012/2/27	2012/8/27	2013/2/27	2013/8/27	2014/2/27	2014/8/27	2015/2/27	2015/8/27	2016/2/29	設定来累計
分配金	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円	0.00円	2,253.40円	2,796.00円	522.00円	2,810.00円	402.00円	0.00円	12,927.80円

※基準価額（1万口当たり）は、信託報酬控除後のものです。
※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。課税前分配金込み基準価額は、基準価額に設定来の課税前分配金累計を加算したものです。
※将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。



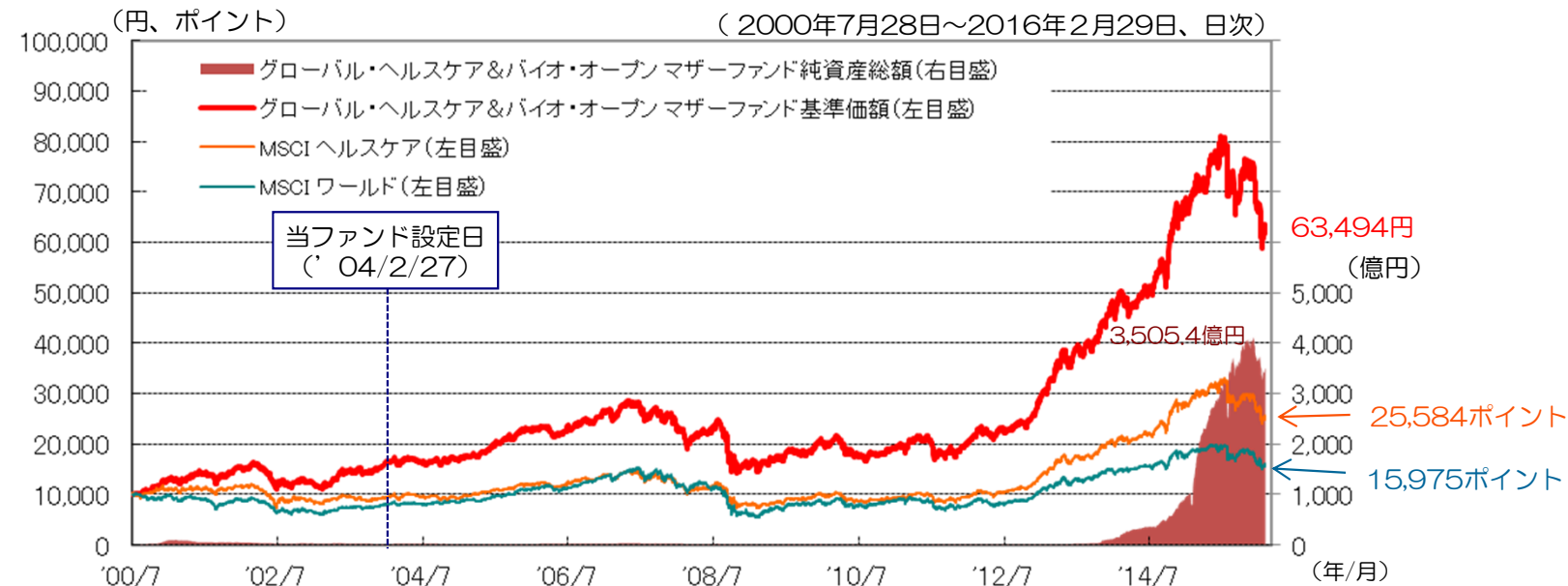
当ファンドが投資しているグローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン マザーファンドの 基準価額と指数等の推移、年間収益率（暦年ベース）

マザーファンドの設定来のパフォーマンスは、多くの年でプラスとなっています。特にパフォーマンスがマイナスとなった2002年、2008年、2010年を含め、2006年以外の年間収益率はMSCIヘルスケアを上回る運用が続いています。

◆ 年間収益率（暦年ベース）

	2000*	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016*
グローバル・ヘルスケア& バイオ・オープン マザーファンド基準価額	27.9%	19.7%	▲19.9%	25.9%	13.2%	31.4%	10.8%	1.5%	▲38.7%	27.4%	▲8.2%	4.9%	34.0%	76.6%	45.0%	13.9%	▲16.3%
MSCI ヘルスケア	17.7%	0.3%	▲27.3%	8.2%	3.8%	24.4%	10.8%	▲0.2%	▲38.8%	23.9%	▲10.3%	3.9%	31.6%	65.3%	37.0%	6.6%	▲14.2%
MSCI ワールド	▲4.9%	▲4.4%	▲28.0%	19.2%	12.1%	25.3%	20.5%	4.4%	▲53.7%	35.4%	▲2.0%	▲10.2%	29.3%	53.8%	22.1%	▲0.7%	▲12.9%
超過収益 （対MSCI ヘルスケア）	10.2%	19.5%	7.3%	17.7%	9.4%	7.0%	▲0.1%	1.6%	0.1%	3.5%	2.1%	1.0%	2.5%	11.3%	8.0%	7.3%	▲2.0%
超過収益 （対MSCI ワールド）	32.8%	24.1%	8.0%	6.7%	1.1%	6.1%	▲9.8%	▲2.9%	15.0%	▲8.0%	▲6.2%	15.1%	4.7%	22.8%	22.9%	14.6%	▲3.4%

◆ 基準価額と指数等の推移



※上記は当ファンドが投資しているグローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン マザーファンド（マザーファンドということがあります。）の運用実績を設定来で
みたものであり、当ファンドの実績ではありません。当ファンドの運用実績については、1ページ、3ページをご覧ください。

【出所】Bloomberg

※上記はあくまでも過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。※MSCI ワールドおよびMSCI ヘルスケア：MSCI ワールド・インデックス（税引き後配当込み米ドル建）および
MSCI ワールド・ヘルスケア・インデックス（税引き後配当込み米ドル建）に基づき、三菱UFJ国際投信が円換算し、2000年7月28日を10,000ポイントとして指数化。計測期間が異なる場合は、
結果も異なる点にご注意ください。なお、両インデックスは当ファンドおよびマザーファンドのベンチマークではありません。

*2000年は2000年7月28日から年末まで、2016年は年初から2月29日までのパフォーマンス。



マザーファンドのポートフォリオの状況（2016年2月29日現在）

業種別組入比率

	業種	比率
1	製薬大手	33.9%
2	バイオ・小型製薬	27.9%
3	医療機器	20.2%
4	医療サービス	16.6%
	合計	98.5%

国・地域別組入比率

	国・地域	比率
1	アメリカ	78.0%
2	日本	7.1%
3	スイス	5.6%
4	イギリス	4.0%
5	ベルギー	1.4%
6	アイルランド	1.3%
7	フランス	1.0%
-	-	-
-	-	-
-	-	-
	合計	98.5%

組入上位10銘柄

	銘柄名	国・地域	業種	比率
1	アラガン	アメリカ	バイオ・小型製薬	7.3%
2	ブリストル・マイヤーズ スクイブ	アメリカ	製薬大手	6.6%
3	メルク	アメリカ	製薬大手	4.9%
4	ロシュ・ホールディング	スイス	製薬大手	4.8%
5	メトロニック	アメリカ	医療機器	4.7%
6	イーライ・リリー	アメリカ	製薬大手	4.7%
7	ユナイテッドヘルス・グループ	アメリカ	医療サービス	4.0%
8	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	アメリカ	バイオ・小型製薬	3.6%
9	塩野義製薬	日本	製薬大手	3.4%
10	インサイト	アメリカ	バイオ・小型製薬	3.3%

※業種別組入比率および国・地域別組入比率、組入上位10銘柄の比率は、マザーファンドの対純資産比率です。

※四捨五入の影響により、純資産比率の合計値が表記の各要素の合計値と異なる場合があります。

※上記の業種は組入銘柄を三菱UFJ国際投信独自の4業種に分類したものです。

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。



マザーファンド基準価額の要因分解（2015年2月末～2016年2月末）

マザーファンド基準価額の要因分解

マザーファンド 基準価額		
2016/2/29	63,494	-9.0%
2015/2/27	69,742	

パフォーマンス	株式要因	為替要因	合計
	-4.1%	-4.8%	-9.0%

業種別	株式要因	比率(平均)	騰落率
医薬品	-0.8%	38.0%	-2.0%
バイオテクノロジー	-2.0%	22.7%	-8.7%
ヘルスケア機器・用品	-0.6%	16.5%	-3.9%
ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス	-0.4%	12.5%	-3.0%
その他	-0.3%	10.2%	-3.4%
株式要因業種別	-4.1%		

基準価額への寄与 上位5銘柄

順位	銘柄名	国	業種
1	塩野義製薬	日本	医薬品
2	アクタビス(現アラガン)	アメリカ	医薬品
3	小野薬品工業	日本	医薬品
4	シナゲバ・バイオファーマ	アメリカ	バイオテクノロジー
5	シグナ・コーポレーション	アメリカ	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス

基準価額への寄与 下位5銘柄

順位	銘柄名	国	業種
1	アルカームス	アイルランド	バイオテクノロジー
2	マイラン	アメリカ	医薬品
3	マッケソン	アメリカ	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス
4	メルク	アメリカ	医薬品
5	アストラゼネカ	イギリス	医薬品

※マザーファンド基準価額の要因分解は、過去1年間のマザーファンドの基準価額の騰落率を株式要因と為替要因に分解したものです。

※株式要因については、さらに業種別に要因分解しています。

※比率（平均）は過去1年間の組入比率を平均したものです。また、騰落率は、株式要因を比率（平均）で割って算出することで、過去1年間の業種別の騰落率を簡易的に表しています。

※基準価額への寄与は過去1年間のマザーファンドの騰落率に寄与した、上位と下位のそれぞれ5銘柄です。

※上記の業種はGICS業種分類を用いています。

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

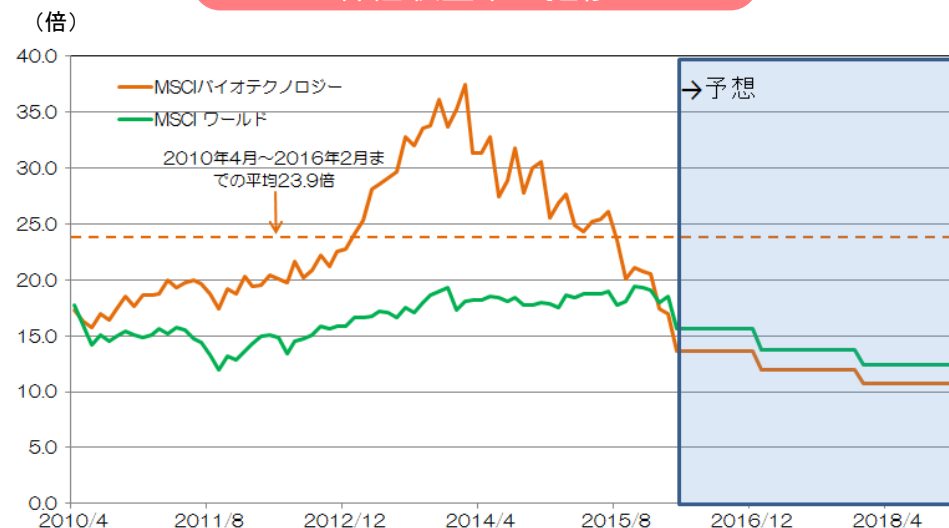


インデックスを使って算出した1株当たり利益の比較（2016年2月末現在）

	ワールド	ヘルスケア	エネルギー	素材	資本財	消費財	生活必需品	金融	情報技術	電気通信サービス	公益
1株当たり利益成長率(%) 実績→3期先予想	12.5	17.7	45.6	16.4	10.3	12.1	8.6	8.0	13.1	13.5	14.6
今期予想PER(倍)	15.6	15.6	39.8	17.7	16.1	15.2	20.7	11.4	15.9	15.6	14.8
3期先予想PER(倍)	12.4	12.7	13.9	12.5	12.9	12.4	17.4	9.4	12.7	13.4	14.1
PBR(倍)	2.0	3.5	1.3	1.7	2.5	2.8	4.1	1.0	3.5	2.2	1.6

	ワールド	ヘルスケア	バイオテクノロジー	医薬品	ライフサイエンス・ツール/サービス	ヘルスケア機器・用品	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス	ヘルスケア・テクノロジー
1株当たり利益成長率(%) 実績→3期先予想	12.5	17.7	18.3	17.8	22.5	17.3	16.4	27.0
今期予想PER(倍)	15.6	15.6	13.7	15.6	19.8	19.2	14.8	23.5
3期先予想PER(倍)	12.4	12.7	10.7	12.8	15.7	15.5	11.9	17.6
PBR(倍)	2.0	3.5	7.0	3.2	3.6	3.2	3.0	5.5

株価収益率の推移



【出所】Bloomberg

※MSCI ワールド・インデックス（米ドル建）、MSCI ワールド・業種別・インデックス（米ドル建て）の1株当たり利益（EPS）。予想値はBloombergのものを使用。

※PER（倍）：株価収益率

※PBR（倍）：株価純資産倍率

※1株当たり利益成長率（%）実績→3期先予想：基準日から過去12ヵ月の1株当たり利益（EPS）

に対する現在の会計年度の3期先の予想EPSの伸び率を三菱UFJ国際投信が年率換算。実績は2015年末。

※3期先予想PER（倍）：現在の会計年度の3期先の予想EPSと基準日の株価を基に三菱UFJ国際投信が算出

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

【出所】Bloomberg

※MSCI ワールドおよびMSCI バイオテクノロジー：MSCI ワールド・インデックス（米ドル建）およびMSCI ワールド・バイオテクノロジー・インデックス（米ドル建）の株価収益率（実績：2010年4月～2016年2月 予想：2016年3月～2018年12月、月次）

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

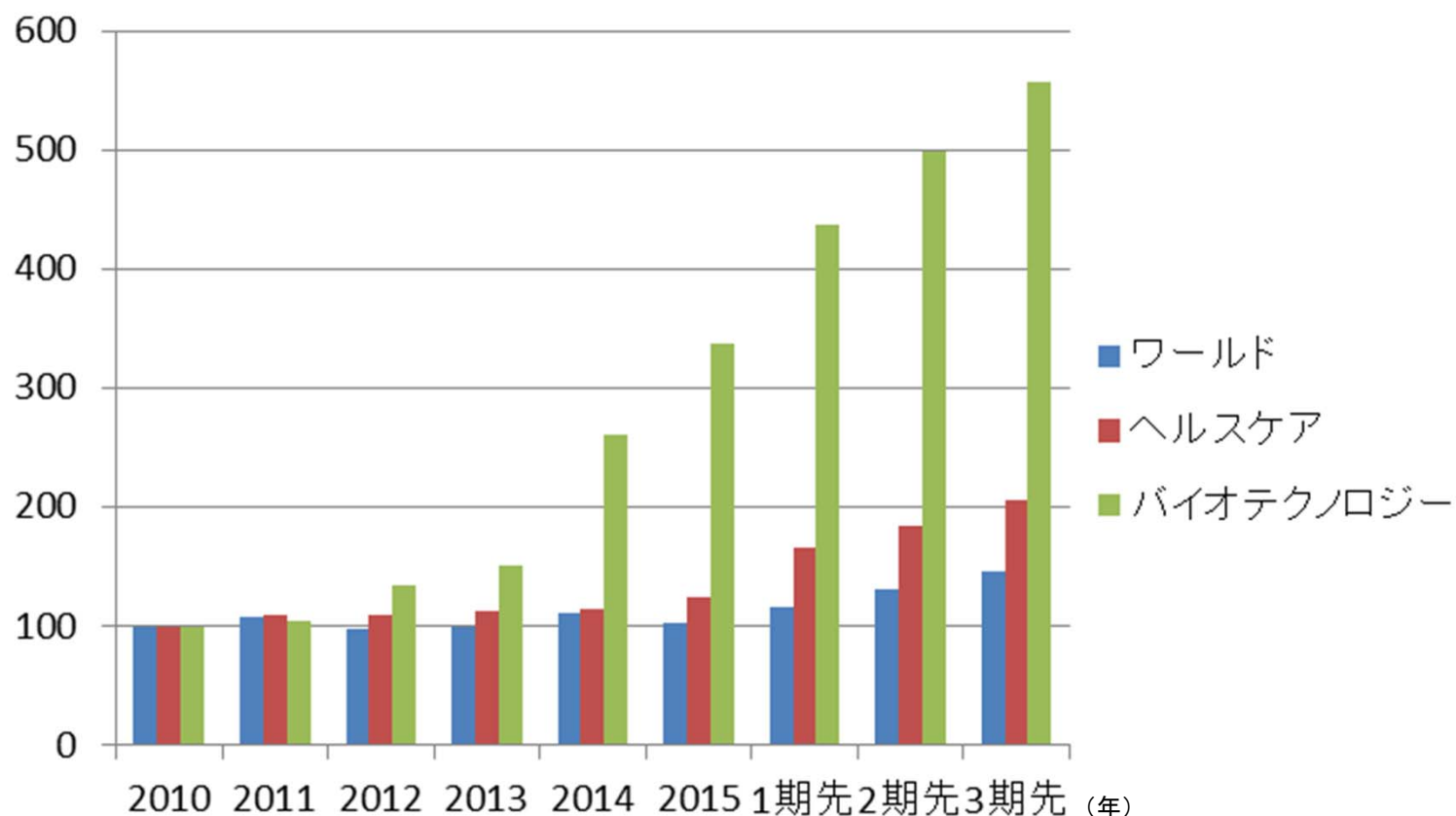
※計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。



インデックスを使って算出した1株当たり利益の比較（2016年2月末現在）

2010年の実績を100として各セクターの実績および予想EPSを見ると、ヘルスケアの安定感とバイオテクノロジーの伸びの高さが際立ちます。

◆ インデックスを使って算出した1株当たり利益の比較



【出所】Bloomberg

※1期先、2期先、3期先は、作成基準日時点で発表されているBloomberg予想値（会計年度ベース）

※MSCI ワールド・インデックス（米ドル建）、MSCI ワールド・業種別・インデックス（米ドル建）の1株当たり利益、予想値はBloombergのものを使用

※2010年実績を100として三菱UFJ国際投信が算出。

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

※計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。



個別銘柄のご紹介（2016年2月末現在）

アラガン

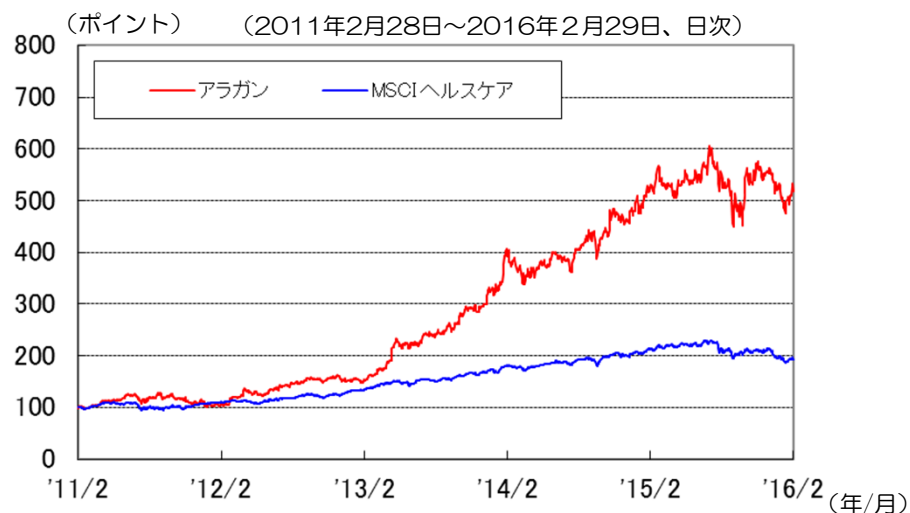
マザーファンドの組入比率第1位のアラガンは米国の特殊医薬品メーカー（登記はアイルランド）で、バイオ医薬品や美容関連の医薬品等に注力する他、ジェネリック医薬品事業も行う。

旧社名はアクタビス。2014年7月にバイオ医薬品大手フォレスト・ラボラトリーズを買収。2015年3月にはしわ取りの注射剤「ボトックス」を主力製品とする大手製薬のアラガンを買収し、2015年6月に社名をアラガンへ変更。

2015年7月に、ジェネリック医薬品事業をイスラエルの製薬大手テバに売却することを発表。

2015年11月に、製薬大手のファイザーとの合併合意を発表。

◆ アラガンの株価とMSCIヘルスケア指数の推移



【出所】Bloomberg

※2011年2月28日を100ポイントとして指数化。

※MSCIヘルスケア：MSCIワールド・ヘルスケア・インデックス（税引き後配当込み米ドル建）を使用

※上記はウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーの資料を基に作成しています。

※上記は作成基準日現在のマザーファンドの保有銘柄の一部をご紹介するものであり、上記銘柄の購入を推奨するものではありません。また、必ずマザーファンドに組入れられるとは限りません。

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

※計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

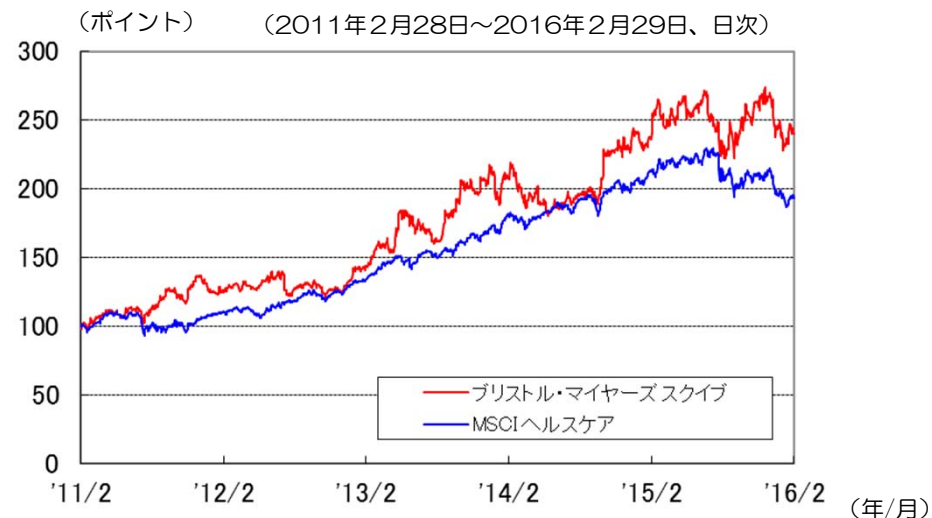
ブリistol・マイヤーズ スクイブ

マザーファンドの組入比率第2位の銘柄であるブリistol・マイヤーズ スクイブは、小野薬品工業と共同で抗PD-1抗体を開発したメダレックス社を買収する等、特にがんの免疫療法を目的としたバイオ医薬品の新薬開発に力を入れています。

このPD-1阻害薬オプディーボはメラノーマ（黒色腫）治療薬としての承認を皮切りに、適応拡大の試験をすすめています。2015年7月には、欧州委員会で肺扁平上皮がんの治療薬として承認され28カ国で販売開始、また米国で腎細胞がんのフェーズⅢ試験を早期終了するなど順調に市場での価値を高めていると考えています。

※ PD-1（Programmed cell death 1）は、T細胞の細胞死誘導時に発現が増強される遺伝子

◆ ブリistol・マイヤーズ スクイブの株価とMSCIヘルスケア指数の推移





今後の市場見通しおよび運用方針（2016年2月末現在）

<今後の市場見通し>

今後も、ヘルスケアセクターは投資魅力が高いとみています。①バイオ医薬品分野での活発なイノベーションや米国食品医薬品局（FDA）による医薬品の承認ペースが2000年代に比べて上がっている傾向にあること、②新興国の経済成長に伴う所得増加や人口増加、③先進国の高齢化などを背景に、今後もヘルスケア市場の中長期的な成長が見込まれています。

ヘルスケアセクターの企業収益見通しは引き続き堅調とみられる一方で、2016年は米国大統領選挙を前に株価の変動が大きくなることが予想されます。大統領選挙に際し、薬価を含む医療費を巡る政治的議論が盛んになることは明らかで、一時的に企業収益などのファンダメンタルズが株価に反映されにくくなることも予想されますが、11月に大統領選挙が終わり2017年に向かう頃には落ち着きを取り戻すとみています。

また、医療保険料の上昇や医療費の財政負担の高まりなどを背景に、医薬品や医療サービスへの価格抑制圧力は今後も強まる見通しです。M&A（合併・買収）についても、価格抑制圧力に対応すべく規模の拡大によるコスト削減や、開発中の新薬や新技術の獲得などを目的に、引き続き活発に行われるとみています。

<運用方針>

上記の通り、基本的な見通しに大きな変化はなく、ヘルスケアセクターは引き続き中長期的に魅力的な投資対象と考えています。

今後の運用方針に関しましては、引き続き個別企業の長期的な収益成長力などを評価し、個別銘柄の選別を行っていく方針です。具体的には、先進的な研究開発力などを背景に中長期で堅調な業績が見込まれる企業を中心に投資を行っていく方針です。今後、バイオテクノロジー技術の発展や、医薬品、医療サービスへの価格抑制圧力は企業間のグローバルな優勝劣敗をもたらすと予想され、個別銘柄の選別がより重要と考えています。

また、短期的に株価が上昇した銘柄を一部売却し、逆に株価が下落した銘柄を買い増すことで、リスクを低下させつつ魅力的な運用成果の追求をしていく所存です。

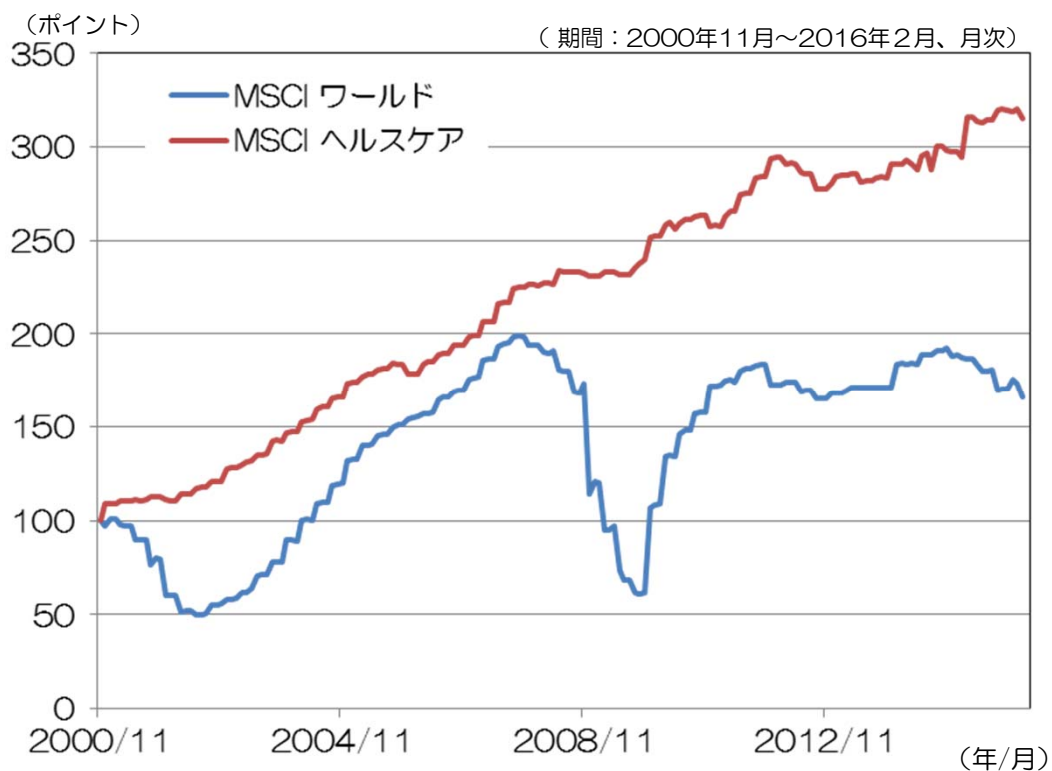


ヘルスケア・バイオ関連企業のEPS（1株当たり利益）と株価指数の推移

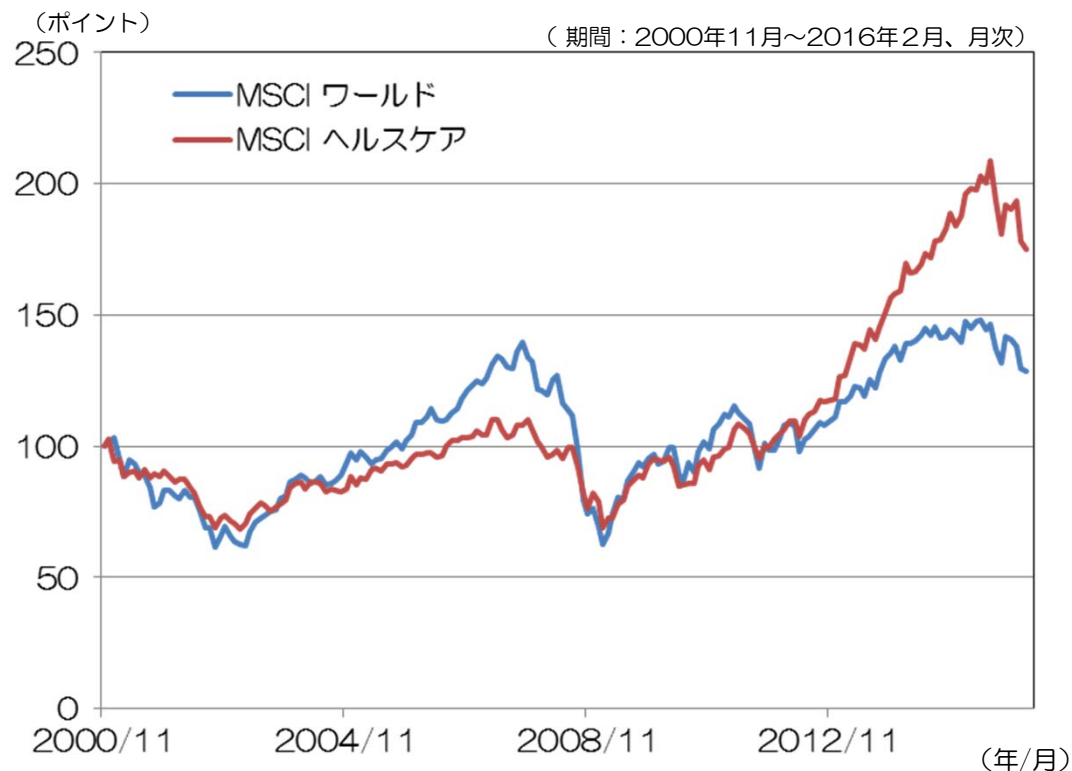
ヘルスケア・バイオ関連企業は相対的に安定した利益拡大を実現しています。

ヘルスケア・バイオ関連企業の株価は株式市場全体の動きをアウトパフォームしてきました。

◆ ヘルスケア・バイオ関連企業のEPS（1株当たり利益）の推移



◆ MSCI ワールドとMSCI ヘルスケア株価指数の推移



【出所】 Bloomberg

※MSCI ワールドはMSCI ワールド・インデックス（税引き後配当込み米ドル建）、MSCI ヘルスケアはMSCI ワールド・ヘルスケア・インデックス（税引き後配当込み米ドル建）を使用

※EPS、株価指数共に2000年11月を100ポイントとして指数化

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

※計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。



バイオテクノロジーの進化と治療領域の発展 ～医薬品産業革命（医療技術の進歩）～

新しい医薬品の開発が期待されている分野

脂質異常症治療薬 (コレステロール低下薬)	✓ PCSK9というたんぱく質の有無により、悪玉コレステロール値が決まることを発見。重篤な患者、遺伝性の患者にも効果の高い新型のバイオコレステロール低下薬の開発が進められ、2015年7月21日には米国アムジェン社のPCSK9阻害薬エボロクマブが欧州当局から世界初承認されました。 ✓ スタチン系先発品の特許満了に伴う後発品の登場で市場規模は縮小していましたが、今後は作用機序の新しい次世代薬により、市場規模の拡大が期待されています。
C型肝炎治療薬	✓ 米国ギリアド・サイエンシズ社が開発した経口C型肝炎治療薬であるソバルディ（NS5Bポリメラーゼ阻害薬）は、1日1回12週間で定価が8万4,000ドル、1日あたり1,000ドルの費用が掛かりますが、著効率が94%と驚異的な効果を持っています。2013年12月に米国、2014年1月に欧州で承認され販売が始まり、2014年は年間で102億8,300万ドルを売上げました。 ✓ 日本における治験でも96%の著効率が示され、2015年5月に薬価収載されました。 ✓ また、2014年10～11月にアメリカ、欧州で相次いで承認を取得したハーボニ（ソバルディにHCV複製複合体阻害薬レジパスビルを加えた配合薬）も売上高21億2,700万ドルとなり、2剤合計で124億1,000万ドルと上市後1年余りで世界第2位の売上をあげるまで成長しました。
がん治療薬	✓ がん細胞にあるたんぱく質の性質と役割を解明し、その機能を低下させつつ、自己免疫機能でがん細胞を攻撃する抗体医薬品の開発が進んでいます。 ✓ P9に記載したPD-1をターゲットにしたPD-1阻害薬のほかにも、PD-1のリガンド（Ligand：特異的に結合する物質）に注目し、ターゲットとした阻害薬の研究開発が進められており、2015年8月にはロシュ社からPD-L1阻害薬が非小細胞肺癌（すべての肺癌の中で80%超を占める）を対象としたフェーズⅡ国際共同治験において腫瘍の縮小を示したとリリースされました。 ✓ 上の2つの阻害薬はともにがんの免疫逃避機構（免疫の攻撃から逃れて自身を守るしくみ）である「PD-1／PD-L1経路」に注目し、これを阻止する薬剤とされています。

※上記分類は各種資料を基に三菱UFJ国際投信が作成したものです。定義によっては、上記と分類・説明等が異なる場合があります。



バイオテクノロジーの進化と治療領域の発展 ～医薬品産業革命（大型品の変化）～

2014年の世界の医薬品売上高ランキングを見ると、バイオ医薬品がトップ10の内で7品目を占めています。

◆ 世界の医薬品売上高上位10品目（2005年vs2014年）

※赤字はバイオ医薬品

【2005年】

（百万米ドル）

順位	製品名	メーカー	売上高
1	リピトール	ファイザー/アステラス	12,963
2	ブラビックス	サノフィ・アベンティス/BMS	6,223
3	イボト・エソ・フ・ロクリット /イボト	アムジェン/J&J/キリン	6,145
4	ノルバスク	ファイザー/大日本住友他	5,245
5	セレタイド/アドベア	グラクソ・スミスクライン	5,168
6	ネクシウム	アストラゼネカ	4,633
7	タケブロン /プレバシッド	武田薬品/TAP/ワイ/アト	4,394
8	ゾコール(リボバス)	メルク	4,382
9	ジブレキサ	イーライ・リリー	4,202
10	リツキサン/マブセラ	バイオジェン・アイデック/ロシュ/中外	3,867



【2014年】

（百万米ドル）

順位	製品名	主な薬効/クラス	メーカー	売上高
1	ヒュミラ	関節リウマチ/クローン病	アッヴィ/エーザイ	12,902
2	ソバルディ/ハーボニ	慢性C型肝炎	ギリアド・サイエンシズ	12,410
3	レミケード	関節リウマチ/クローン病	J&J/メルク/田辺三菱	9,909
4	エンブレル	関節リウマチ/クローン病	アムジェン/ファイザー/武田薬品	8,927
5	リツキサン	抗がん剤/抗リウマチ	ロシュ /バイオジェン・アイデック	8,744
6	ランタス	糖尿/インスリンアナログ	サノフィ	8,432
7	アバスチン	転移性結腸がん	ロシュ/中外製薬	7,021
8	ハーセプチン	HER2乳がん	ロシュ/中外製薬	6,865
9	アドエア/セレタイド	抗喘息/COPD	グラクソ・スミスクライン /アルミラル	6,620
10	クレストール	高脂血症/スタチン	塩野義/アストラゼネカ	6,372

【出所】アイ・エム・エス インフォメーション・ソリューションズ株式会社

ユート・ブレーン事業部の調査による

2014年は同事業部発行のPharma Future 2015年5月号時点のもの

※上記は製品名・メーカー名をご紹介しますものであり、上記銘柄の購入を推奨するものではありません。また、これらの銘柄が必ずファンドに組入れられるとは限りません。



グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド ウエルントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーのご紹介

※本資料において、ウエルントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーをウエルントン・マネージメント社ということがあります。

会社組織（2015年12月末時点）

- 創業1928年・・・長い歴史と伝統を誇る運用会社
- ボストンを本拠に、グローバル展開する運用会社
 - ・運用資産額9,269億ドル（約111.8兆円、1ドル=120.61円で換算、2015年12月末現在）
 - ・世界50カ国以上のお客様に資産運用サービスを提供
 - ・世界12拠点に、2,000名以上の従業員（うち運用プロフェッショナルは608名）
- 資産運用を唯一の業務とする、パートナーシップ制の組織
 - ・顧客や株主との利益相反の排除
 - ・「運用第一主義」「顧客第一主義」の継承
- ウエルントン社の使命
 - 顧客の利益への貢献、変化の先取り、セルサイド(証券会社)からの脱却
- キャリアとしてのアナリスト
 - パートナーとして遇されるアナリスト、長期的視野に立った見方、担当分野への精通
- ボストンを中心としたコミュニケーション
 - コミュニケーション重視、高度な分析能力の維持、企業文化の維持

高い実績と経験のヘルスケア・チーム（2015年12月末時点）

運用担当者：7名のアナリスト兼任ファンド・マネージャー制
ヘルスケア株式平均カバー歴：約23年
チーム運用資産：約672億ドル（2015年12月末現在）

ヘルスケア・セクターでは世界最大規模のファンド(*)の運用アドバイザーを受託。

- (*) ヴァンガード・ヘルスケア・ファンド (Vanguard Health Care Fund)
- 設定日:1984年5月23日
- 純資産:約523.2億ドル
- (約6.31兆円、1ドル=120.61円で換算、2015年12月末現在)

※出所：ウエルントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、Bloomberg

運用機関の資産総額 ランキング上位20社

順位	運用機関名	総資産(百万\$)
1	BlackRock	3,051,497
2	Vanguard Group	1,821,687
3	State Street Global	1,819,237
4	BNY Mellon	1,463,378
5	PIMCO	1,113,488
6	Fidelity Investments	1,107,786
7	J.P. Morgan Asset Mgmt.	938,845
8	Wellington Mgmt.	913,103
9	Prudential Financial	862,110
10	Amundi	861,875
11	Legal & General Investment	747,967
12	Northern Trust Asset Mgmt.	709,600
13	AXA Investment	647,644
14	Legg Mason	596,026
15	TIAA-CREF	541,720
16	Goldman Sachs Group	525,000
17	Aberdeen Asset Mgmt.	502,349
18	Deutsche Asset & Wealth	496,240
19	Capital Group	465,157
20	UBS Global Asset Mgmt.	434,474

出所：ペンション&インベストメント誌 2014年12月31日時点

モーニングミーティングの様子





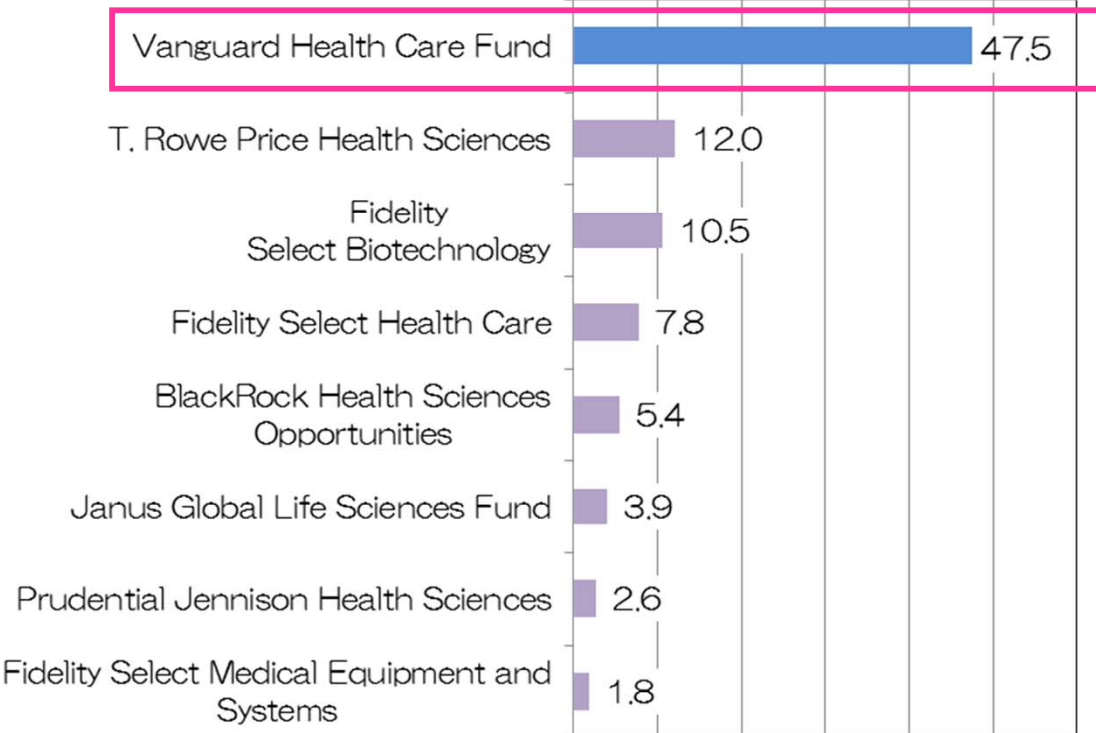
Vanguard Health Care Fundは2016年1月末現在、ヘルスケア・セクターでは世界最大規模の純資産です。

Vanguard Health Care Fundは1984年からウェリントン・マネージメント社が運用をしており、長期の運用実績があります。

◆ Vanguard Health Care Fundと類似ファンドの純資産比較
(2016年1月末)

(10億米ドル)

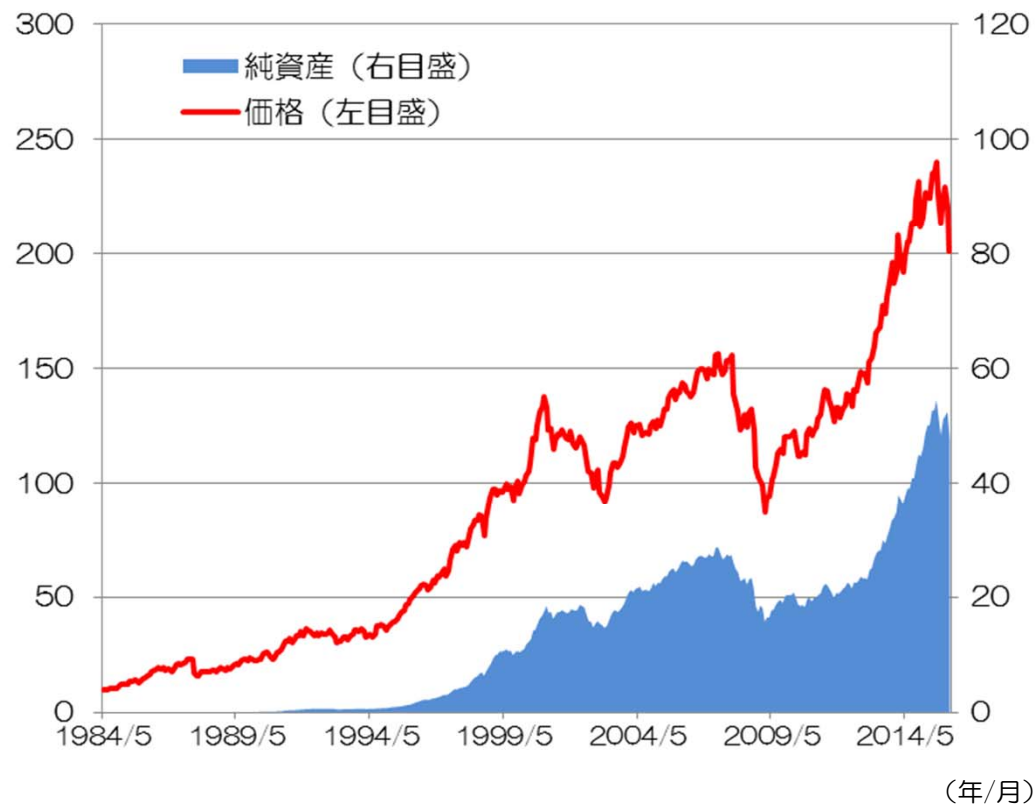
0 10 20 30 40 50 60



◆ Vanguard Health Care Fundの純資産と価格の推移
(1984年5月末～2016年1月末、月次)

(米ドル)

(10億米ドル)



※上記は当ファンドの実績ではありません。

【出所】 Bloomberg

※上記はあくまで過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。



グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド ファンドの目的・特色

ファンドの目的

信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

1 世界主要先進国市場のヘルスケア・バイオ関連企業の株式を主要投資対象とします。

- ◆世界主要先進国市場の中から、製薬、バイオテクノロジー、医療製品、医療・健康サービス関連企業等の株式に分散投資を行います。
- ◆株式の組入れは、原則フルインベストメントとします。

2 ファンダメンタルズ^{*1}の健全な企業へ長期的なバリュー投資^{*2}を行います。

- ◆新商品の開発、企業の合併・統合、政策変更等を背景としたヘルスケア・バイオ市場の変化によってもたらされる投資機会に着目します。
- ◆銘柄選定は、ヘルスケア・バイオ関連企業のファンダメンタルズ分析に基づいて行います。
企業の事業見通し、新商品の見込み、企業戦略、競争性等に重点を置いたボトムアップ・アプローチ^{*3}を行います。
- ◆外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

^{*1}【ファンダメンタルズ】 マクロ視点に立った場合、国の経済状態を表す経済指標のことを指し、ミクロ視点に立った場合には、個別企業の財務・収益状況を表す指標を指します。

個別企業の財務データや業績見通しといった株価を動かす基本的な要因を重視した分析を、ファンダメンタルズ分析といいます。

^{*2}【バリュー投資】 企業の収益や純資産などの一定の基準に対して、現在の株価が割安なのか割高なのかを見きわめ、割安度を重視して投資する手法のことをいいます。

^{*3}【ボトムアップ・アプローチ】 投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

資金動向や市況動向等によっては、特色1、特色2のような運用ができない場合があります。

3 運用指図に関する権限の全部または一部をウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーに委託します。

- ◆ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーは、1928年に創業した米国最古の運用機関の一つです。
- ◆ヘルスケア・セクターでは世界最大規模のファンドの運用アドバイザーを受託しています。

4 年2回決算を行い、収益の分配を行います。

- ◆毎年2月27日および8月27日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

収益分配方針

- ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ・委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。
（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。）

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。（資金動向や市況動向等により変更する場合があります。）



グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド 投資リスク

投資リスク

■基準価額の変動要因

基準価額は、組入有価証券等の値動きや為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。したがって、**投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。**主な変動要因は以下の通りです。

○株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。

株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

○為替変動リスク

当ファンドは、主に米ドル建の有価証券に投資します(ただし、これらに限定されるものではありません。)。外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。

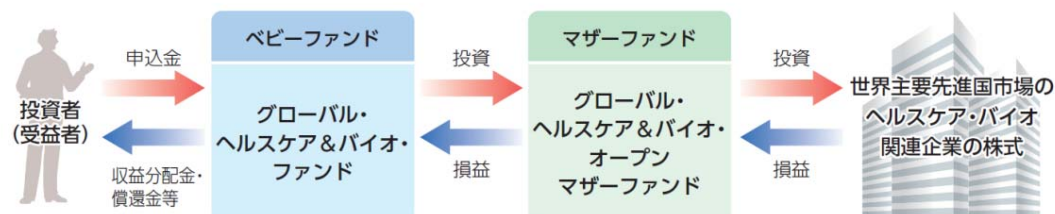
上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■その他の留意点

- ・投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- ・受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

■ファンドのしくみ: ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。



※当ファンドは、グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン マザーファンドのほか、株式へ直接投資することがあります。



#



販売会社 お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

金融商品取引業者名 (※は取次販売会社)		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会	金融商品取引業者名 (※は取次販売会社)	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第6号	○	○			株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号	○		○
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○		○		株式会社大分銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第1号	○		
いよぎん証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第21号	○				株式会社沖縄海邦銀行	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第3号	○		
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○		○		株式会社香川銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第7号	○		
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○				株式会社鹿児島銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○		
SMBGフレンド証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第40号	○			○	株式会社神奈川銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第55号	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	株式会社関西アーバン銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第16号	○		○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○		株式会社北日本銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第14号	○		
岡地証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第5号	○				株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○		
カブトムチ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○		株式会社高知銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第8号	○		
木村証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第6号	○				株式会社西京銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第7号	○		
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第43号	○				株式会社佐賀共栄銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第10号	○		
光世証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第14号	○				株式会社山陰合同銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第1号	○		
寿証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第7号	○				株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○		○
篠山証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第16号	○				株式会社四国銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第3号	○		
静銀ティーム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第10号	○				株式会社清水銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第6号	○		
島大証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第6号	○				株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○				株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○		
荘内証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第1号	○				株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○
常陽証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○				(委託金融商品取引業者 常陽証券株式会社)					
大万証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第14号	○				株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○				株式会社親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○		
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第110号	○		○		スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○		
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第114号	○				ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第578号	○		○
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○				株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第61号	○		
奈良証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第25号	○				株式会社第三銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第16号	○		
西村証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第26号	○				株式会社大正銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第19号	○		
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○		株式会社筑邦銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第5号	○		
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第21号	○	○			株式会社千葉興業銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第40号	○		○
PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第50号	○				株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第17号	○		
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○				株式会社東京都民銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第37号	○		○
ひろぎんウツミ屋証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○				株式会社東邦銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第7号	○		
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○				株式会社東北銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第8号	○		
ふくおか証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第5号	○				株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第60号	○		
松阪証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第19号	○	○			株式会社徳島銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第10号	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○		株式会社鳥取銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第3号	○		
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○				株式会社トマト銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第11号	○		
三木証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第172号	○				株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第7号	○		
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○	株式会社長崎銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第11号	○		
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○			株式会社長野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第63号	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○		○	○	株式会社名古屋銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第19号	○		
リテラ・クレア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第199号	○				株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第15号	○		
株式会社青森銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第1号	○				株式会社東日本銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第52号	○		
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○				株式会社肥後銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○		

※今後、上記の販売会社については変更となる場合があります。

※今後、上記の販売会社については変更となる場合があります。

(2016年3月7日現在)

※今後、上記の販売会社については変更となる場合があります。

巻末の「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。



委託会社およびファンドの関係法人

- 委託会社 三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会:一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
- 受託会社 株式会社りそな銀行 (再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
- 投資顧問会社 ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー
- 販売会社 販売会社の照会先は以下の通りです。

三菱UFJ国際投信株式会社



0120-759311(フリーダイヤル)、受付時間/営業日の9:00~17:00

■ホームページアドレス: <http://www.am.mufg.jp/>

「本資料で使用している指数について」

・MSCI ワールド・インデックス、MSCI ワールド・業種別・インデックス、MSCI ワールド・バイオテクノロジー・インデックスおよびMSCI ワールド・ヘルスケア・インデックス(出所:MSCI)。ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をMSCIは何ら保証するものではありません。またその著作権はMSCIに帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。

・Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.(以下MSCI)とThe McGraw-Hill Companies, Inc.の事業部門であるStandard & Poor's(以下S&P)が開発し、両者が排他的知的財産および商標を有しています。三菱UFJ国際投信(株)は、許諾を得て利用しています。GICSおよびGICSの基準および分類作業に関連したMSCIおよびS&Pとその関係会社あるいは第三者(以下、MSCIおよびS&Pとその関係会社)は、当該基準および分類(あるいは、これらを利用した結果)に関して何らかの保証や表明を行うものではありません。また、MSCIおよびS&Pとその関係会社は、GICSの独創性、正確性、完全性、販売可能性や特定の利用目的に対する適合性等を保証するものではありません。上記のいずれをも制限することなく、いかなる場合においても、MSCIおよびS&Pとその関係会社は、損害が発生する可能性を知悉していた場合であっても、直接的な損害、間接的な損害、特別な損害、懲罰的損害賠償、結果としての損害、その他の損害(逸失利益を含む)について、その責を負いません。

「本資料に関してご留意頂きたい事項」

本資料は三菱UFJ国際投信が作成した販売用資料です。投資信託の取得のお申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。なお、以下の点にもご留意ください。○投資信託は預金等や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。○銀行等の登録金融機関でご購入頂いた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。○本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。